信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

２年２組

わたしとニコとミッケのくらし
～ニコとミッケの赤ちゃんがいることを信じて～

「いる」から感じられること

雄山羊を望むわたしたちの声を田中さんに届けました。田中さんは、ニコに合う雄山羊をすでに考えてくださっていました。「え、どんな山羊？どんな山羊？」と笑顔になって期待を高める子どもたちに、ニコと同じくらいの大きさで月齢も近い「ミッケ」という雄山羊を貸し出していただけることを伝えると、教室が湧きました。また、ミッケは、アルパイン種とヌビアン種のミックスだということ、大野さんによると実はニコもトカラ種とヌビアン種のミックスであり、二頭ともヌビアン種の血が流れているということから、「ぴったりだ」と、さらに子どもたちの気持ちが高まっていきました。「ミッケがいい。田中さんが選んだ山羊なんだから」と田中さんへの信頼を感じる声もありました。雄山羊の迎え入れを見通した後、改めてニコと出産に挑戦するかを考えました。やっぱりニコの赤ちゃんに会いたい。出産に伴う危険は心配だけれど、今考えてもどうなるかは分からないから、覚悟をもってやるしかない。ニコが安産で産めるように支えていきたい。そんな思いから、ニコの出産に挑戦していくことを決めました。

この日の午後、ニコの発情が確認できました。ニコのおしりに白いものがついているということから、すぐ駆けつけてくださった佐藤先生。「発情です。結婚の準備ができたということだよ。あとは体重、体の大きさだけ」と先生の話を聞いた子どもたちは、喜びの声を上げました。

実はこの前日から、「ニコ、怒ってるよ。耳が立ってる」、「なんかすごくついてきて不思議」と、子どもたちはいつものニコとの違いを口々にしていました。発情の兆候だったことが考えられます。「なんか違う」と、ニコを感じ取る子どもたちの姿に、かなわないなあと思いました。「かわいい。本当にかわいい」と、体重測定で抱きかかえられたニコに言う子どもたち。ニコに抱きつき顔や体を寄せる子どもたち。「さっき、ニコが２階でうとうとしてたよ！」と一大ニュースのようにわたしに報告し、「かわいすぎる」とつぶやくＴさん。飼うというより、一緒にいる。そういう子どもたちだからこそ、感じ取れるものがあるのかもしれません。

信じて

ミッケをお迎えした翌日、壁越しに顔を寄せ合うニコとミッケの様子を見て、ニコとミッケが直接近づけるようにしたいと思ったわたしたちは、一緒に散歩をしてみることにしました。すると、ミッケは力強くリードを引っぱりながら、ずっとニコについて行くようにして歩いたり走ったりしていました。ニコは、ミッケのことがとても気になる様子でしたが、時折ミッケから離れるようにして動いたり、時にミッケに頭突きをしたりしていました。「じゃれ合っている」と言う子もいれば、「ニコ、だめ！」と止める子もいました。ニコとミッケを追って大移動しながら二匹がどんな様子なのかをワクワクしながら見守っていたわたしたち。ニコから頭突きをすることはあったものの、二匹でけんかし合うような様子ではなく、ミッケがニコについて行くことで二匹がずっと一緒にいる散歩となり、「仲良くできそ

う」と期待が高まりました。また、今まではニコとの散歩でしたが、ニコとミッケとの散歩になり、散歩がより楽しいものになったことも感じました。散歩を終えてそれぞれの小屋に戻った後もずっと相手を気にしているニコとミッケの様子を見て、「ニコとミッケ仲良しだね！」、「もう結婚できたんじゃない？」「まだだよ。交尾したらだよ」と、そんな話が上がりました。本当にそうなのか？結婚や交尾って具体的にどういうことなのか？以前からも疑問になっていたことを解決するために、佐藤先生に教えていただくことにしました。

佐藤先生は、次のことをわたしたちにお話してくださいました。わたしたちの言っている結婚とは「交尾」のことで、生き物が絶滅しないよう子孫を残していくための最も大切な行動であること。交尾とは、お母さんのおなかにある小さなたまご（卵子）に、お父さんの精子が飛び込むことで、それは、発情中のメスの背中にオスがのるようにした時に起こるということ。精子と一緒になった卵子がお母さんのおなかの中（子宮）にくっついて赤ちゃんが育っていくということ。発情が、「たまごができました」の合図であり、ニコも交尾をいやがらないはずだということ。もし交尾ができてニコが妊娠したら、激しく走ったり跳んだりすると、たまごがだめになってしまうことがあること（とくに最初の２カ月）。だから、今まで以上にやさしくしてあげてほしいということ。子どもたちは、真剣な眼差しで佐藤先生のお話を聞いていました。大切なこととして自分の中に蓄えたいという思いがある姿に見えました。そして、佐藤先生から、ニコの体の大きさ（約２８キロに到達）が十分であることやニコの発情時期が近いこと、ニコとミッケの関係がよさそうであるということから、小屋を一緒にしてニコとミッケが交尾できるようにしてもいいだろうと教えていただきました。すぐにでも一緒にしたいと思っていたわたしたちは、交尾を期待しながらニコとミッケを同じ小屋に入れました。しかし、そこで起こったことは期待していた様子とは違いました。ミッケがニコを追いかけ回すのです。勢いよく追いかけるミッケと必死に逃げるニコ。わたしは、散歩の時とは違う２匹の様子に驚きました。このまま一緒にしていて大丈夫なのかと心配になりました。驚きの声を上げる子、楽しそうと捉えて笑う子、心配の声を上げる子、だまって見つめる子、子どもたちの反応は様々でした。佐藤先生曰く、ミッケがニコのおしりのにおいをかいで発情を確かめようと追いかけているそうで、よくある光景だそうです。一緒にして、離して、これを何度か繰り返すうちにニコは落ち着いていくだろうとのことでした。子どもたちと相談し、一度ミッケを離すことにし、その日の午後にもう一度一緒にしました。どうなるかとドキドキして見守りましたが、ニコはあまり逃げ回りませんでした。ミッケも落ち着いた様子です。これなら大丈夫かなと安心し、やがて、ニコの発情予定日を迎えていきました。

発情予定日の１８日。ニコの発情と二匹の交尾に期待してニコとミッケを一緒にして過ごしましたが、交尾する様子は見られませんでした。その翌日も交尾を見ることはできませんでした。結局、今に至るまで交尾の様子を見ることはできていません。もしかしたら、わたしたちの気づかないうちにしていたのかもしれませんが、本当のところは分かりません。一応、次の発情予定日にニコの発情がこなければ妊娠の可能性が高いということですが、それを確実に見取ることも難しいようです。この状況に子どもたちは、「信じてやっていきたい」ということを語りました。それを聞いて、わたしも、ニコのおなかに赤ちゃんがいることを信じて、今まで以上にやさしくお世話していきたいと思いました。そんな時、Ｓさんがこんな日記を書いてきました。

今日、ニコが前足をチモシーかごに入れてました。あぶなかったです。チモシーかごをいどうさせようとしても、前足が入っているからはこべなくて、こまっていたら、Ｓちゃんがやさいくずが入ったあみをくれました。これでおびきよせて、ニコのおなかのたまごをまもれました。たまごをまもれてよかったです。

ニコのおなかに命がやどっていることを信じて守ろうとしているＳさんが、たしかにここにいる。そのことを感じ、わたしが問われている気がしました。